

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第163版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクループログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵



第41版を機にカラー印刷へ変更、その後現在のA3サイズへ。変遷の様子が分かります。

あなたはカグヤ通？

でのカグヤ米の総収量。過去最高でした！
【2918】…クルーの奥山家待望の第一子の出生体重。誕生おめでとう！

【161】…2022年12月発行の竹取新聞の号数。初版から13年の道のりです。

大盛り上がりで答えを導き出しましたが、答えが合っていた時の嬉しさはもちろん、みんなで同じ情景を共有しながら1年を振り返ることがとても温かな時間となりました。

アクティビティ後の感想では「カグヤの20年の歴史を見ているようで、数字で振り返るのも面白い」といった声がありました。たしかに1年間だけでなく20年間が同時に思い出され、今まで本当にたくさんの方々のお力添えがあったことを再認識する時間にもなりました。最後に課題した竹取新聞の発行数の問題では、パートナーさんが初版から13年間ずっとファイリングしてくださっていたことも告白され、そんな風にカグヤや竹取新聞を大切に思ってくれていたことに感動！「これはカグヤさんが持っていた方がいいと思うので」とその分

厚いファイルも贈ってください、これからはそのご恩を引き続き私たちが繋いでいこうと思っています。

また、「何よりもアクティビティ担当が楽しそうで素敵！」といった感想もありました。今回はどんな数字にしようか考えている時から当時を思い出して楽しくなり、「これはものすごく良いアクティビティが出来上がった気がする！」と担当同士で自画自賛。ウキウキな気持ちで出題していたことが伝わったのかもしれない。実は毎月新しいアクティビティを開発し、社内で実践、お客様へご紹介できるまで改良を重ねる過程は容易ではなく、体を動かすものや頭を使うものなど、試行錯誤の連続でした。今回は楽しく1年を振り返ることができた場作り、という目的が担当間でしっかり共有できていたことが協力・協働に繋がったのかもしれない。

場作りのためのアクティビティはカグヤホームページでも公開しています。今回のアクティビティも社内だけでなく皆様のお役に立てるよう、改良しご紹介していきたいと思っています。（眞田由莉）



ソフトセミナーを通じて、参加者同士から学び合える場づくりを来年度も深めていきます。

見守り続ける理由

今年度の「ミマモリングソフトセミナー年間講座」では、①実際にソフトを活用し自園の子どもを「年齢」ではなく「発達段階」で理解していくワークシヨップ ②その子の発達に必要な環境を実際に用意して保育を実践してみる実践期間 ③実践してみた結果を参加者同士で共有し合い、学び合う「実践発表」の3つを1回のセミナー内容とし、春夏秋冬と年4回開催をしてきました。

このようにセミナーの一連の流れが毎回同じでも内容が変わっていくのは、子どもたちは毎年異なるからです。今年の子どもたちも一人ひとり異なるということ。一人の子どももまた、成長し続けて異なる姿を見せ続けてくれるということ。そして社会も変わり続けているからでしょう。常に変わり続けるからこそ、見守り続ける必要があるのだと思います。

「ミマモリングソフトセミナー」がその後押しとなり、学びの場となるよう、来年度の準備も進めております。ぜひまた一緒に学び、見守りの文化を繋いでいけたらと思います。（眞田海）

カグヤでは会議や一円対話を始める前に「アクティビティ」を行っています。こちらの誌面でも何度かご紹介しているもので、その場の雰囲気をも温める目的で行っています。

これは1年間をみんなで振り返る目的から考えたものです。最初に数字のみ発表し、なかなか答えが出ない場合はヒントとして単位を発表。実際に出題した数字をご紹介します。ピンときた方はかなりのカグヤ通かもしれません。

【20】…2022年はカグヤ創業20周年でした！

【56】…ギビングツリー主催の保育環境セミナーが第56回を数えました。

【1045】…むかしの田んぼ

昨年、クルーとパートナーさんが勢揃いした年内最後の初心会議では「あなたはどれくらいカグヤ通？ この数字なくんだ？」と題し、出題者が発表した2022年のカグヤに関する数字が何にまつわる数字かを参加者同士で考え、答えを導き出すアクティビティを行いました。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

命の循環



何を食べるかからどう食べるかに意識を向けた「幸せを味わう食べ方」を子どもたちに伝承できたらと思います。

先日「食べる瞑想」をテーマに勉強会を行いました。講師のももえ様（ZenEating）の導きに沿って、頭ではなく自分の感覚を優先し味わっていくと、普段の食事とは全然違う時間になり、まさに眼から鱗。今回は、自分たちの田畑で育った「むかしのお米」や野菜を使い、ご飯に味噌汁、漬物など、今まで何度も食べたことのある馴染み深いものばかり。

り。喋らずすぐに嘔まず丁寧に食べ物と向き合っていくと、一つひとつ関係が結ばれていくかんじで、香りや食感、味なども新発見だらけでした。特にご飯は「こんなに甘いな」という驚きと共に、一緒に田んぼに関わってこられた方々のことを思い、感謝に包まれながら一口一口をかみしめ味わい涙が出そうになる程で自分でも驚きました。そして、命をいただいたということ、そんな命の循環の中で生かされているという感覚を覚え、なおさらありがたい気持ちになりました。食事でこんな感覚を味わえるとは衝撃的で、本来の食事の意味や幸せに気付けるヒントを教えてくださいました。きつと感覚の違いが体感できますから、毎食は難しくても、月一回や最初の3口だけなど、園生活やご家庭でも丁寧に味わう時間をつくってみてはいかがでしょうか。（宮前奈々子）

日本の智と慧

口に苦し

陽射しが日毎に温かみを増してきました。そろそろ太陽の光を意識的に浴び代謝を上げて身体を目覚めさせていく必要があるようです。スーパーではフキノトウや菜の花などの山菜や春野菜が並び始めています。「身土不二」と言われてその土地の旬のものにはそこに暮らす人と大切な関係があると言われますが、春のものの中には「苦味」を含んでいるものがあるため子どもたちには不人気です。人間は「甘味」や「うま味」等から味覚を発達させていきますから、「苦味」や「渋味」を覚えるのはまだ



摘んだばかりの清々しい香りと春を告げる爽やかな苦味をぜひ味わってみてください！

まだ先のようなです。ただこの時季の「苦味」は寒い間に溜まった脂肪や老廃物を外に出す役割があり、冬眠から覚めた熊はまずフキノトウを食べるとか。デトックスまで考慮した自然の仕組みと先人の智慧には感じします。最近「美味しいかどうか」を話題にしがちですが、「口に苦いもの」は「薬膳」として、また春の香りとともに「人生の奥深さ」を学ぶものとしてじっくり味わってみるのもいいでしょう。（藤堂昌恒）

初心を忘れない

一期一会庵

先日、岡山のある保育園の副園長先生が久しぶりに訪ねてきてくれました。その方は、大病を患い九死に一生を得るような体験をしてまた復帰され、今はますます活躍されています。現在でも変わらずにどんなことも子どもたちのために吸収しようという真摯な姿に感銘を受けました。道に入り、道を歩む人は、かけがえない日々を大切に成長することを楽しみ深く味わっています。

いかと道を求め続けています。私たちは先生たちのように直接的に子どもに関わることはほとんどありません。先生方をはじめ経営者や周囲の大人たちを通して間接的に子どもを見守ります。今では子どもを見守る大人たちを見守るのが私たちの役割であり使命でもあると感じています。こうやって子どもも大人も見守り合う社会を実現したいと願い、子ども第一義の理念を掲げたら働き方を変えらるることになり、生き方を磨こうと発展して日々が充実しています。保育に出会えて心からよかったです。今ではいつも感謝しています。

思い返せば、保育の道の奥深さを私に教えてくださったのは藤森平司先生です。子どもの発達の不思議さ、子どもを丸ごと信じる見守る環境の大切さ、そして見守る保育という生き方に気づかせていただきました。あれから随分の年月が経ちましたが、御蔭様で毎日は青春で学ぶことが尽きず、まだ発見と成長と学び直すことがばかりで仕合せです。今でも、何かを学び何かに気づけばいつも「子どものため、保育に活かせるのではないか」とそればかりを考えています。そしてこれが現場の先生たちの見守りにお役立てできるのでな

見守る保育の素晴らしさとその大切さをこれからもカグヤクルー一同、初心を忘れずに取り組んでいきたいと思えます。（野見山広明）



編集後記



去年の今頃はまだお腹の中！今年と一緒に見られました！

「あなたはカグヤ通？」を考える際、参考にした一つに園の行事「成長展」があります。子どもの成長を保護者と一緒に喜び合える行事のように、一年を振り返り、クルー皆で喜び合える時間になったら企画しました。テーマ設定で配慮した点は、会議参加者全員が目にしたことのある数字にし、会話が

弾むようにしたことです。2918gで生まれた我が子が8000gを超えました。日々新しい食材を口にし、嬉しそうに目を輝かせたり、苦手そうな顔つきをしたり、様々な表情を見せてくれます。食べることが楽しい！そんな環境を作れるよう見守っていききたいと思えます。（奥山卓矢）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

